

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>自ら学び心豊かに たくましく生きる 児童の育成 ◎めざす子ども像 ・すすんで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・最後までやり</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着と学習意欲の向上 ・コミュニケーション力の育成 ・人権を尊重した仲間作りと心の教育の推進 ・特別支援教育の立場にたった授業作り ・地域学習の推進
--	--

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>○国語Aについては、正答率が県平均とほぼ同じ。 ○国語B、算数A、算数Bについては、県平均と比べると正答率が高い。 ○算数ABともに、図形領域に課題がある。 ○国語Aは、話す・聞く、読むが県平均を下回っている。 ○国語Bでは、読むについては、県平均を上回っているが、話す・聞く、書く領域が、県平均を下回っている。 算数AB ※高さが等しい平行四辺形と三角形の関係 本校55%(全国67%) ※正五角形の特徴 本校65%(全国75%) ※与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」を選び、選んだわけを記述する。 本校0%(全国13%) 国語AB ※目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。本校20%(全国33%) ※俳句の情景を捉える。本校65%(全国79%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○家庭学習時間1時間以上の割合が県平均に比べて低い。 ○平日、土・日とも、ゲーム、テレビ、スマートホンなどを1時間以上している児童の割合が県平均よりも高い。 ○読書が好きだという児童の割合は、県平均よりも高い。 ○「相手の目をみて」「大きな声で」などのめあてをもってあいさつに取り組んだ結果、「あいさつ」の項目が県平均より高い。 ○友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だという児童の割合が、県平均に比べてあまり高くない。 ○国語B、算数Bの調査問題の解答時間が足りなかったと答えた児童の割合が、県平均よりも高い。 指導の重点項目 ※メディア等の時間を家庭と協力して約束を決めるなどし、メディア時間をコントロールさせる。 ※授業等で振り返りを書かせることなどで、自分の言葉で表現できる力を向上させる。 ※学級の友達との間で話し合う活動を通して、話し合う内容をしっかり理解して、相手の話を最後まで聞き、自分の考えを伝える力をつける。</p>

<p>成果</p>	<p>課題</p>
<p>○朝学習で、前学年の学習内容のプリントを継続して行うことが、基礎学力の定着に繋がった。 ○算数や国語の授業で、自分の言葉で表現する活動を意識的に取り入れたことで、表現方法には、まだまだ課題はあるが、自分の考えを持ち、表現できる力が伸びた。 ○家庭学習で、発展的な内容や、自学で、授業に関連した、予習・復習を行うことが、授業以外での学習習慣をつけた。 ○朝学習で前学年の漢字練習に取り組むことで、漢字の読み・書きが定着しつつあると考えられる。 ○全校で、「チャイム始業・チャイム終了」などの学習規律を徹底したことが、授業での集中や効率の向上に繋がった。</p>	<p>○国語・算数ともに活用型の問題を苦手としている。 ○国語では、長い文章を読むことに抵抗があり、文章をくみとりながら読むこと、目的や意図に応じて複数の内容を関連づけて読むこと、文章の構成を考えて書くことができていない児童が多い。 ○目的や意図に応じて適切な文章を書くこと。 ○根拠をもとに考え表現すること。 ○授業で、自分の考えと友達の考えを聞き比べたり、つなぎあわせたりする。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
朝学習・朝の10分学習・読書タイムの効果的活用	各学期末	全学年 前学年の学習内容と該当学年の学習内容の定着、習熟を図る。	朝学習では、東書プリントを活用して前学年の学習内容の復習、放課後学習では、該当学年の学習内容の予習・復習、読書タイムでは、活用型問題の指導に複数であったなどの指導を徹底して行うことで、学力を向上させる。	朝学習の東書プリントは、全学年縦断体制で指導にあたることで、前学年の学習内容の習熟を図ることができた。放課後学習は、2～4年生で1回ずつ実施し、複数指導することができた。	B	・朝学習の東書プリントは、全学年ががんばり、漢字・研鑽の力がついてきた。子ども達は、意欲的に取り組み、前学年のプリントだけでなく、該当学年のプリントにもかなり取り組	A	・朝学習は、丸付けに並んでいる時間が短縮できるように、複数体制での指導を徹底していく。・どのような内容で学力向上を目指すのかを検討していく。
授業改善	各学期末	全学年 低・・・正しい記述と受け答えができる。高・・・根拠を示しながら意見を説明する。話し合い活動を自分進で進められる。	文章の裏骨をまとめる活動を、各教科の「まとめ」や「ふりかえり」、家庭学習の課題等に取り入れる。ペア学習・グループ学習等の小さな枠組みでの話し合い活動の機会を設定するとともに、話し合いの質の向上を図っていく。経験を重ねることで読解力や説明力の向上を	各教科で、ペア・グループ学習で、ホワイトボードなどを用いて考えを多く積極的に取り入れることで、意見を述べることができるようになってきた。また、ふりかえりを書くことで、自分の言葉で学習のまとめができるようになってきた。話し合いを深めることが課題である。	B	・自力解決の後、ホワイトボードに書かせることで、考えがまとまった。話し合いを深めることを指導しているところである。めあて・まとめでは、徹底できたが、振り返りまできちんと書けるようタイムマネージメントすることができなかった。	B	・ホワイトボードに書いたものを使って、話し合いが深まるようにしていく。・振り返りを書く中で、正しい用語・正しい日本語が使えるように指導していく。
家庭学習の充実と課題全員提出の取り組み	各学期末	全学年 課題全員提出を目指す。	FTAのメディアコントロール等の取り組みや、学校学級通信等による家庭学習の啓発を定期的に行う。学校と家庭が協働して、学年や個々に応じた学習習慣の向上と家(学年×10分プラス10)を意識して家庭学習に取り組ませる。自主学習で予習・復習を行う。(2学年以上)週末課題で、発展問題に取り組ませる。	メディアコントロールの取り組みや自学(予習・復習)週末課題等に全学年取り組むことができた。親と課題はできているが、自学などに、自主的に取り組めるようにすることが課題である。	B	・(学年×10分プラス10)を意識させることで、家庭学習の定着が図れた。・週末課題も考えるうえでとても有効だった。	A	・メディアコントロールカードの全員提出を目指す。内容がマンネリ化しているため、取り組みの改善を考えていく。・自学の取り組みの充実を図る手立てを考えていく。

<p>小中連携の取組</p>	<p>保護者・地域へ理解・協力を求めること</p>
<p>○中学校区での、学習規律の徹底。○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。○メディアコントロールの取り組み○家庭学習の充実(自主学習ノート)○読書活動の推進○書く活動の充実(要旨をまとめる。自分の言葉で学習のまとめをする等)</p>	<p>○家庭のルール(メディアコントロール等の取り組み等)を決め、勉強時間が確保できるようPTAと連携して取り組む。○学力支援が必要な児童に対しては、放課後の補充学習週2回行い、基礎学力の向上と定着をはかれるようにする。○月1回親子読書の時間を設け、親子で触れ合う時間を設定する。</p>